

文楽を愉しむ

# 文楽

平成30年度  
岡崎市文楽事業  
ユネスコ無形文化遺産  
人形浄瑠璃



義経千本桜  
写真 青木信二

よし づね せん ほんざくら  
義経千本桜

しい き  
推の木の段  
すしやの段

昼の部

開演 13:30  
開場 13:00

上演時間 約2時間45分  
(休憩15分)

平成30年

10.6 土

よし づね せん ほんざくら  
義経千本桜

みちゆき はつねのたび  
道行初音旅

夜の部

開演 18:00  
開場 17:30

上演時間 約2時間20分  
(休憩15分)



新版歌祭文

しん ほん づね さい ちん  
新版歌祭文

のぞきむら  
野崎村の段

主な出演者

〈太夫〉豊竹呂大夫  
〈三味線〉鶴澤 清治(人間国宝)  
〈人形〉桐竹勘十郎

※本公演の出演者及び上演内容等と異なる場合がございますのでご了承ください。

会場 岡崎市せきれいホール

入場料 全席指定  
昼夜各 S席 3,500円 A席 3,000円  
昼夜セット券 数量限定 S席 6,000円 A席 5,000円  
小学生～大学生(A席のみ) 1,000円▶

※せきれいホールのみ販売します。  
※学生証を持参してください。

〈文楽イベント〉文楽講座  
文楽の楽しみ方

平成30年 8月21日(火)

開講/19時(開場18時30分)  
会場/甲山会館(岡崎市民会館内)  
内容/人形浄瑠璃文楽座の  
技芸員による文楽の解説等

講座参加料  
¥500

募集定員 ● 150名程度  
参加料 ● 1人 500円  
(当日会場でお支払いください)

文楽公演【昼の部】【夜の部】同時購入で  
講座無料招待券 贈呈

※講座無料招待券は、せきれいホール、市民会館のみ  
取り扱っております。

応募方法 ● 往復はがきにて下記内容を全て  
記入の上、お申し込みください。

往信用 (表) 〒444-0022 岡崎市朝日町3-36-5  
岡崎市せきれいホール「文楽講座」係  
(裏) ①参加希望人数 ②代表者の住所・氏名・電話番号  
③応募者全員の氏名(代表者に○印/5人まで)

返信用 (表) 郵便番号・住所・代表者氏名 (受付期間)  
(裏) 空白にしておいてください。 7/7(出)～8/10(金) 必着

※個人情報保護のため、本講座以外に使用することはありません。

チケット発売 7月7日(土)  
午前9時から

※発売初日のみ、おひとり様4枚までとします。  
※発売日の整理券の配布は8:30から行います。  
※電話予約は発売日の13:00から受付いたします。

※未就学児の入場はご遠慮ください。  
※予約、郵送の取扱い等については各販売所により  
異なりますのでお問合せください。  
※字幕装置がございます。席によっては見えにくい場合  
がございますので、あらかじめご了承ください。

チケット取扱場所

- ◆ 岡崎市せきれいホール ☎0564-25-0511
- ◆ 岡崎市民会館 ☎0564-21-9121
- ◆ 岡崎市シビックセンター ☎0564-72-5111

チケットぴあ Pコード [485-971] ☎0570-02-9999(受付用)  
※セブンイレブン、ファミリーマート、サークルK・サンクス  
※チケットぴあでは昼夜セット券のお取り扱いがございません。

- ◆ 富士プレイガイド ☎0564-55-2662
- ◆ 岡崎呉服協同組合 ☎0564-23-7065

【お問合せ】岡崎市せきれいホール ☎0564-25-0511 FAX 0564-25-0512  
〒444-0022 岡崎市朝日町3丁目36番地5

主催/岡崎市・岡崎市せきれいホール指定管理者一般社団法人岡崎パブリックサービス・公益財団法人文楽協会  
後援/文化庁 助成/芸術文化振興基金・朝日新聞文化財団

交通案内 [名鉄バス] 東岡崎駅(バスターミナル)から市民病院行約10分 バス停「徳王神社前」下車、南へ約100m  
[徒歩] 東岡崎駅より約25分(約1.2km) [駐車場] 市役所東立体駐車場

昼の部

【解説】 あらすじを中心に 豊竹希太夫

義経千本桜

よしつねせんぼんざくら

椎の木しのぎの段

【人形役割】

口 豊竹 巨太夫  
鶴澤 清丈

奥 豊竹 呂勢太夫  
鶴澤 清治

すしやの段

前 豊竹 呂太夫  
鶴澤 清介  
後 竹本 津駒太夫  
鶴澤 藤藏

望月太明蔵社中

源義経によって平家は滅亡。しかし、平重盛の嫡子維盛は生きていて高野山に入ったと噂。都の近くに身を潜めていた維盛の妻若葉の内侍と若君を連れ、主馬小金吾武里が高野へと向かいますが、途中、吉野の下市村で親からも勘当された患者、いがみの権太に金をゆすり取られた上、追手にあい、討死。実は、維盛は、かつて重盛に恩を受けた弥左衛門、つまり権太の父の店で、泰公人の弥助として匿われていました。事情を知らない妹お里は、父が熊野浦から連れて来た弥助に首つたけ、今夜の祝言が楽しみでなりません。けれども、内侍が宿を求めて訪れ、真実が明らかになり、一生連れ添うつもりでいた夫を失ったお里の慟哭...

夜の部

【解説】 あらすじを中心に 豊竹 巨太夫

義経千本桜

よしつねせんぼんざくら

道行初音旅

【人形役割】

静御前 豊竹 呂勢太夫  
狐忠信 豊竹 希太夫  
ツレ 豊竹 巨太夫

鶴澤 清志郎  
鶴澤 清丈  
鶴澤 友之助

静御前 鶴澤 勘十郎  
狐忠信 吉田 玉助  
吉田 文司

新版歌祭文

しんぱんうたざいもん

野崎村のさきむらの段

中 豊竹 希太夫  
鶴澤 清丈

前 竹本 三輪太夫  
竹澤 團吾

後 竹本 文字久太夫  
竹澤 團七  
鶴澤 友之助

望月太明蔵社中

大店の娘お染と丁稚久松の、許されない主従の恋。しかも、お染には結婚が決まり、久松には、養い親久作の妻の連れ子、おみつという許婚がいました。この恋の行く末を心配し、また孝行なおみつの幸せを願う久作は、店で失敗した久松が実家に戻されたのを幸い、おみつと祝言をあげさせることに。待ちに待った祝言が突然決まり、おみつは大喜び。ところが、久松を追ってお染が...  
あくまでも恋を貫こうとするお染。その強い思いに打たれ、一度は恋を諦めた久松も、一緒にいなければならない死ぬとの意を再び固めます。久作は、道ならぬ恋を思い切るよう説得。涙ながらに別れを約束する二人。しかし、おみつは、心中の覚悟を見抜き、二人を添わせるため、自身の幸せを諦めて尼に...  
安永九年(1780)、竹本座初演。お染・久松の心中(1710)を題材とし、新たな悲恋を盛り込んだ、近松半二の上下二巻の世話物で、上の巻の「野崎村」は文楽の代表的な演目のひとつ。お染の美しいクドキや、お染と久松が船と駕籠とに別れて野崎村(大阪府大東市)から大坂へと去って行く段切の、華やかで躍動的な三味線は、大変有名です。



【名鉄バス】東岡崎駅(バスターミナル)から市民病院約10分 バス停(徳王神社前)下車、南へ約100m  
【徒歩】東岡崎駅より約25分(約1.2km) 【駐車場】市役所東立体駐車場